

# 研究二十五年

財團法人 理化學研究所

昭和十七年三月二十日





# 研究二十五年

財團法人 理化學研究所

昭和十七年三月二十日



## 「研究二十五年」に就て

長くも御下賜金壹百萬圓の恩命に浴し、大正 6 年 3 月 20 日財團法人理化學研究所が創立せられて以來、25 年の星霜を閲し、昭和 17 年 3 月 20 日を以て創立 25 周年の記念式を舉行する喜びを迎へた。創意を掲げて自然の姿を究めんとする學徒の研鑽は黙々と續けられ、人類の福祉を増さんと希ふ技術者の努力は倦む所を知らず、かくて 25 年は過ぎ去つた。茲に式典を擧ぐるに當つて、理化學研究所の成長の姿を眺め、業績の數々を顧るべく編纂したのが此の小冊子である。

25 年前の吾國に於て「研究」を專業とする大きな機關としては當所が唯一最初の存在であつた。當初は政府の補助金を受け又民間有力會社、實業家等の寄附金に依つて成立した當所は、其後年と共に人的要素、設備、機構を擴充し、現在に於ては所長子爵大河内正敏博士以下 1500 餘名を擁する一大組織となつた。長岡半太郎博士、鈴木梅太郎博士、本多光太郎博士を始め 33 名の主任研究員によつて率ゐられる 33 の研究室は各々平均 24 名、多きは 100 名にも達する研究者を有する科學研究の道場であるが、夫れ等の大要は「組織」の章に述べる事にした。

當所に於て日日研究を進められる項目は創立當時に於て僅に 9 項目であつたが今日は數百項目の多きに上つて居る。研究結果は邦文歐文に依り毎月發表せられて居るが、25 年間の發表論文は邦歐文を合せて 36,000 餘頁にのぼつて居る。是等の業績の内には輝かしき創意によるもの多く、帝國學士院を始め内外の權威ある機關より褒賞せられたる者も多數に上つて居る。總て是等の成果は「業績概観」の章に略述する事とした。當所に於ける研究に依つて學位を授與せられたる者は約 120 名の多きに達して居るが當所は又多數の學者を世に送り出して居る。當所に於て數年間の研究生生活をなし招ぜられて公私立の大學、専門學校等に教授として任官したるもの亦多數ある。

當所に於て一應完成せられたる研究の件數は夥しき數に上り其の一々に就て述べる事は到底不可能であるが、比較的一般人士にも興味あり且つ理解し易きものを撰び其の内容の概略を説明したものは矢張り「業績概観」の章に、物理化學等夫々の専門別に記載した。是等の記述は單に理化學研究所所員 25 年間の努力の記録となるのみならず、一般人士の科學知識向上に資する事が出來るとすれば編者の喜とする所である。

當所は現在約 24,354,000 圓の資産を有し、年度經費約 3,600,000 圓を計上して居る。是等の内譯數字は「資産及び經費」の章に略述してある。

當所所有の特許權は逐年増加の傾向を示して居るが現在當所所有の内外特許權、實用新案は總數 1000 餘件に上つて居る。當所の發明は當所内に於て可成大規模に實用化の試験が行はれる。是等が事業化せられる場合には適當なる條件の下に所外の會社等に實施を許諾するが、近年實施を申出る會社多數に上り活況を呈して居る。是等の事情の概況は「特許權及研究の事

業化」の章に述べてある。

本小冊子はかなり短時日の間に急いで編纂したもので不備の點も多いが、是により理化學研究所の 25 年間に於ける業績の概觀と現在の輪廓の大體を御理解願へるならば編者の本懐とする所である。

昭和 17 年 3 月

「研究二十五年」編纂委員

# 目 次

「研究二十五年」について

第1章 理化學研究所の目的	1
第2章 創 立 事 情	2
第3章 組 織	4
第4章 業 績 概 観	8
I. 業 績 總 覽	8
II. 物 理 學 關 係	13
III. 應 用 物 理 關 係	26
IV. 理 論 及 無 機 化 學 關 係	42
V. 有 機 及 生 物 化 學 關 係	50
第5章 資 産 及 經 費	57
第6章 特許權及研究の事業化	60
業績概観 内容細目	i

插 圖

1. 構 內 建 物
2. 研 究 室 內 部
3. 構 內 建 物
4. 圖 書 室
5. 構 內 建 物
6. 研 究 室 內 部
7. 構 內 建 物
8. 研 究 室 內 部





